

国外実態調査報告書

テーマ : 学部生による研究発表
ゼミ名 : ブラック グラント ゼミ
調査日 : 2024 年 10 月 26 日 (土) ~ 2024 年 10 月 30 日 (水)
調査先 : 【韓国】
授業科目名 : 国際教養演習Ⅱ
参加学生数 : 2 名 (3 年生)

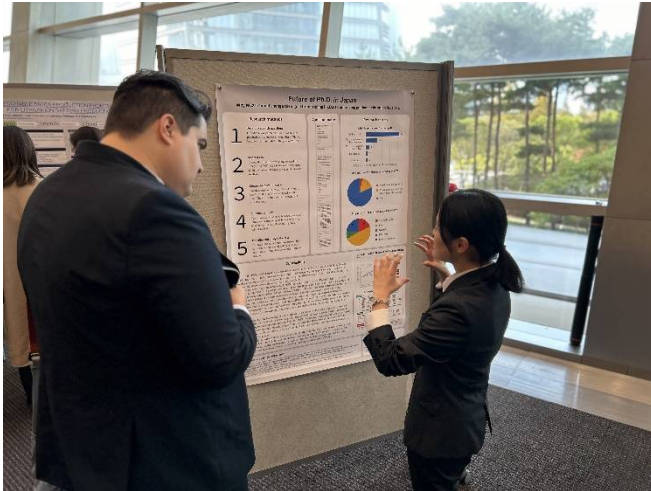
調査の趣旨 (目的)

韓国教育学会と連携した学部研究シンポジウムで、学界と専門家に独創的な研究成果を発表する。フィードバックやアドバイスから学ぶことで研究を進める。

調査結果

- ・自らの研究結果をポスタープレゼンテーションとして発表し、聴衆や教授からフィードバックをいただいた。
- ・事前のワークショップなどによってポスタープレゼンテーションにおいて重要なポイントを学んだ。
- ・発表者同士や聴衆とのコミュニケーションによって、個々人のつながりを作ることができ、異文化交流も行なった。
- ・韓国の教授や学生との交流によって、韓国での学部教育の実態について知ることができた。
- ・学生はどちらも今回が初めての韓国訪問であり、日本と韓国の類似点、相違点を体感することができた。
- ・石原葵の発表について
日本における Ph. D. の問題点と改善案について発表し、訪れた人の多くが Ph. D. 保持者であったこともあり、多くの方に興味を持ってもらえた。研究のフィードバックに加え、各国の Ph. D. の制度や価値についての比較や議論を行うことができた。
- ・栗田悠樹の発表について
4 月に「Future of Accounting」というテーマを決めて研究を始めた時には知り得なかった会計と AI の深い知識を得ることができた。
具体的には、AI の分類などにはじまる基本的な知識や学部の講義で得た知識を元に研究を進める中で、関連するインターネットの記事や参考文献として使用した他大学の教授の「監査における AI の活用」といった他論文内から興味深い事実を知ることができた。
また、研究の過程で会計学科の教授を対象に「大企業会計における AI の使用に関する調査」を独自に行い、各教授の主張を参考にして独自の見解を述べられるようになった。よって、この研究・ポスター発表を通して学術的にとても教養を深めることがで

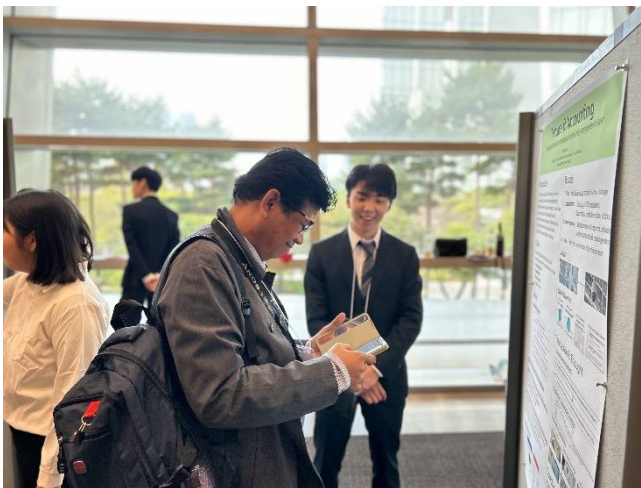
きたとを感じる。



Aoi presenting



Capacity building workshop



Yuki presenting



Dinner meeting with Dr Howe



Group photo of undergraduate presenters